

しゃっちょうは行く!

90

Broaden your horizons 90 ~さあ、視野を広げて!~



こんにちは。メディセレのしゃっちょう、児島恵美子です。

先日、「第12回次世代の薬剤師を創る会 in 大阪」を開催いたしました。一般口頭発表のトップバッターは、メディセレ薬局の北川佳史先生(管理薬剤師)でした。「薬剤師育成講師としての薬局業務への取り組み」をテーマに、「医師が変わったら、薬が大幅減量になった」などの事例を紹介され、現場が「薬剤師育成ギブス」であることを再認識させられました。次に、マルゼン薬局の馬淵賢幸先生から「プライマリ・ケアにおける薬剤師の関わり」についてご発表いただきました。車いすメーカーなどを含む20人ほどで在宅移行に関するカンファレンスを実施されていること、経口薬の服用を拒否する乳がん患者さんに対してフェントステープ1日2枚半という処方(メーカー非推奨)に対応していること——さまざまな処方事例をきっかけに、香川県や岡山県、佐賀県からご参加いただいた方々が処方土地柄を教えてくださいの活発な意見交換の場になりました。

最後は、ジャパンファーマシーの室幸枝先生による「薬剤師が取り組むプライマリ・ケア」でした。「目薬だけだからお薬手帳はいらないよ」、そういう状況を打開するため、毎回眼圧を尋ねることで意識変革をもたらし、94歳の患者さんを含む多くの患者さんがお薬手帳に眼圧をメモリ、自分の眼圧を答えられるようになったという事例をご発表いただきました。そして、プライマリ・ケアの5つの理念、▽近接性(成果を共に喜ぶ)▽包括性(眼圧以外の悩みや相談)▽協調性(病識・薬識の向上)▽継続性(お薬手帳への継続した眼圧記載)▽責任性(緑内障治療の重要性を説明する機会の増加)——をご教示くださいました。

特別講演の演者は、兵庫医科大学病院の木村健先生(薬剤部長)でした。「保険薬局での服薬指導と薬歴管理について」というテーマだったのですが、10年後の未来予想図にはワクワクしましたし、それを実現するヒントにはドキドキしました。その一つが「ファーマシューティカル・コミュニケーション」です。患者さんが持つナラティブ(物語)や心理状態を読み取れているでしょうか。その一つが「SOAP薬歴」です。特に、A(Assessment)が書けないと悩むのであれば、「C(Check) & P(Practice)薬歴」でよいなど、型にはまりやすい薬剤師たちに役立つ知識を授けてくださいました。学び続けましょう、10年後も薬剤師が薬剤師であるために……。

Medisere(メディセレ) 代表取締役社長 児島 恵美子